

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度は、タブレットドリルと並行して、ノートやワークシートなどに書いてまとめる活動を行ってきた。3、4年生について、東京ベーシックドリルの正答率の結果が学期を追うごとに上昇（年間で3年生は11.9%、4年生は6.7%上昇）して、成果が表れた。
- ・大田区学習効果測定の見点別の正答率を見値と比較すると、4～6年生において「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のどの見点においても、見値を上回り、ICT 機器を用いて、身近な場面を取り入れた導入の工夫を行ったり、具体物操作や算数的活動を継続してきたことが成果に表れたと考えられる。

(2) 課題

- ・5年生の「変わり方調べ」では、見値をわずかではあるが0.7%下回り、記述問題では、全体の約4分の1が無記入であった。他の学年でも作図問題にほとんど解答していない割合が多く、「主体的に学習に取り組む態度」の見点で課題が残った。
- ・大田区指定のタブレットで使用するアプリケーションがリニューアルされ、新しいタブレットドリルを使用し始めた。今年度は、この取り組み結果に着目して、成果や課題を調べていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全国の平均値を3.0%上回った。		
第5学年	全国の平均値を2.0%上回った。	全国の平均値を1.5%上回った。 (第4学年時)	
第6学年	全国の平均値を5.0%上回った。	全国の平均値を3.9%上回った。 (第5学年時)	全国の平均値を3.4%上回った。 (第4学年時)

(2) 分析（見点別）

① 第4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見値を7.4%上回った。設問別に見ると、全ての領域の問題で見値を上回り、□を使った式、かけ算の計算で見値より、10%以上上回っていた。基本的な知識・技能がよく身に付いていると言える。	見値を8.1%上回った。設問別に見ると、□を使った式、かけ算、表と棒グラフ、わり算、などほぼ全ての領域で見値より10%以上正答率が高かった。唯一、あまりのあるわり算の処理の問題のみ、正答率が14%低く、課題があることが分かった。	見値を9.1%上回った。設問別に見ると、ほぼ全ての領域の問題で見値を上回ったが、二等辺三角形の作図について、見値を約4%下回り、一部課題があることが分かった。

② 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を4.1割上回った。設問別に見ると、24問中20問の正答率が目標値を上回っていて、「知識・技能」はよく身に付いていると言える。しかし、「大きな数の表し方」「平行四辺形の作図」の2問は5割ほど下回っていて、技能面の一部が課題であることが分かった。	目標値を6.8割上回った。設問別に見ると8問中3問は正答率が10割以上も上回った一方で、「変わり方調べ」の2数量の関係を説明する問題で、目標値を5割ほど下回った。	目標値を2.9割上回った。設問別に見ると、10問中3問の正答率が目標値を10割以上上回った一方で、「変わり方調べ」の2数量に関する説明問題では、目標値を下回り、無回答が全体児童の1/4の人数いた。「折れ線グラフ」の間違いを指摘する問題でも、無回答が1/6の人数いて課題が残った。

③ 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を11.3割上回った。設問別に見ると23問中15問の正答率が目標値を10割以上も上回った。目標値を下回っている設問はあるものの、大田区平均は上回っていた。「知識・技能」はよく身に付いていると言える。	目標値を7.9割上回った。設問別に見ると、10問中8問の正答率が目標率を10割以上も上回った。「小数の計算」の小問で1つ目標値をやや下回っているものの、他の小問では大きく上回っていた。全体として「思考・判断・表現」はよく身に付いていると言える。	目標値を7.4割上回った。設問別に見ると、6問中4問の正答率が目標値を10割以上も上回った。「円グラフや帯グラフ」の情報を読み取り、理由を説明する問題で目標値を約8割下回った。それでも、大田区の平均値を約9割上回り、無回答も全体児童の2割と低いため、課題は残るが、全体として「主体的に学習に取り組む態度」はよく身に付いていると言える。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習熟度別少人数指導、朝の時間を使ってタブレットドリル学習に取り組み、たし算・ひき算を繰り返し行うことで、基礎的な力を身に付けさせていく。	・習熟度別少人数指導を行う。 ・文章題の意味理解が出来ておらず、適切な立式ができない児童がいる。半具体物の活用や図をかくことなどでイメージしやすくさせる。	・新しい内容に出合った時や、様々な算数的活動の際に児童の反応や発言を大切にする。電子黒板で場面絵や挿絵を見せたり、ICT機器の操作や動画機能を活用したりして 児童が興味をもって楽しく取り組める授業づくりを行う。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習熟度別少人数指導、朝の時間を使ってタブレットドリル学	・「わり算のあまりの処理」の問題で課題があったため、場面絵	・4、5年生で作図に課題があったため、習熟度別指導を生かし

習に取り組み、四則計算の問題を中心に繰り返し行うことで、基礎的な力を身に付けさせていく。	を示したり、図を用いたりして問題を日常生活と結び付けながらイメージさせる力を付けていく。また、算数的活動に力を入れて、日常の生活に算数を活かす力を身につけさせていく。	て、一人一人の児童の様子を見回りながら、三角定規や分度器の使い方など、児童の実態を把握して個別指導を行っていく。
--	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・機械的な操作で計算させるのではなく、計算方法の意味を考えさせたり、既習事項から作図方法を話し合ったりしながら、確実な知識や技能を身に付けさせていく。	・数量関係の理解を促すため、図や数直線図の活用を行う。 ・身近な場面のデータを使って割合を計算させるなど、算数的活動に力を入れていく。	・引き続き、ICT 機器を用いて、1人1人の児童が自分に合ったペースで学習を行えるようにする。 ・ノート指導を大切にして、個別に考えさせたり、友達と話し合わせたりして、自分の考えを表現する授業作りを行う。

4 重点指導事項

○タブレットドリルを活用して、計算問題演習を繰り返し、基礎的な知識・技能の定着を図る。

(知識・技能)

○具体物操作や算数的活動に力を入れたり、自分の考えをノートやワークシートにまとめて、友達と考えを伝え合ったりして、思考・判断・表現の充実を図る。

(思考・判断・表現)

○ICT 機器を用いて、身近な場面を取り入れた導入の工夫を行い、主体的に学習に取り組む態度を引き出す。

(主体的に学習に取り組む態度)